

参考資料) ゾーンごとのコンセプトに関する
WGでの検討結果
(過去資料より抜粋)



令和5年度の検討のまとめ

1	検討の背景と目的	2
2	対象エリア	3
3	検討の経過	4
4	エリアプラットフォームの構成	8
5	次年度のスケジュール(案)	9
6	エリア内の強み・弱み・機会・脅威	11
7	まちなかエリアの現状	12
8	現状・課題に関するWGでの意見交換結果	20
9	エリアの課題	22
10	ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果	23
11	未来ビジョンの再構成(案)	28

令和6年3月13日

第4回加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム準備協議会

10 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

WG検討での検討事項

エリアの目指す姿について、より深く検討するため、課題を踏まえて、空間としての3つのゾーンと、それらを結ぶ「つながり」の4つの検討テーマを設定

エリアの
課題

空間としての3つの
ゾーンと、それらを
結ぶ「つながり」

まち
(商店街)

みず
(加茂川)

みどり
(加茂山)

つながり

WGでの
検討内容

4つの検討テーマごとに、取組選択や優先順位設定の「基準」となるような「具体的なイメージ／ポイント」を検討

実現のための取組
(令和6年度検討)

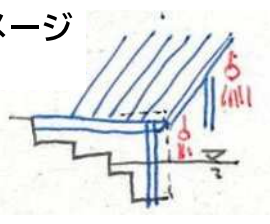
10 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

まち（商店街）について

WGでの議論	
具体イメージ／ポイントに関する議論	・ 近隣地区住民がふらっと行きたくなる商店街になると良い。 ・ 多世代向けの色々な居場所があると、賑わいが生まれる。 ・ 大型店舗ではなく、商店街に行く理由は、「店主とのコミュニケーション」である。 ・ 生活者のニーズに対応できるよう店舗や生活サービスを充実させる。また、回遊を生む上では飲食店（食べ歩き）が不足している。郊外のスーパー等との差別化を考える必要がある。 ・ 空き店舗が有効に利用され、時代のニーズに合わせた商店街としての新陳代謝が進むような仕組みが重要である。 ・ 商店街全体が加茂の名物・特産品・お土産も含め、加茂の良いモノが詰まった「ショーケース空間」になると良い。 ・ 具体的な取組としては商店街全体を「道の駅」とすることが有効である。市外の観光客がメインのターゲットではなく、まちなかエリアで暮らす人、加茂駅を利用する若者、まちなかエリア外の市民も楽しく過ごせ、幸せになれる「道の駅」にしたい。 ・ 歩行者天国等で回遊を楽しめるほか、高齢者がバスでアクセスしやすい交通環境をつくることが重要である。
シーン	・ まちなかエリアのこども園に子どもを迎えにいった帰りにお買い物。子どもの託児サービスを利用してきて便利。商店街で買い物すると託児料金が割引となり嬉しい。 ・ 商店街の飲食店に高校生や大学生が、学校帰り、休日に立ち寄っている。 ・ 日中は近所に住む高齢者が、井戸端会議を楽しんでいる（心も健康になる）。 ・ 商店街に子どもの遊び場ができて、街がにぎやかに、明るくなった。 ・ 加茂の名物や特産品・お土産などを買うことができ、市外の友人を連れてきた。 ・ まちなかエリアで乗降すると料金が優遇されるなど、公共交通システムが充実している。 
参考	・ 商店街を道の駅化した事例あり。（岡山県 道の駅「山陽道やかげ宿」） ・ 道の駅は、無料で24時間利用可能な駐車場・トイレ（規模要件なし、分散配置可）、情報発信（交通、生活、観光レク）、地域連携機能を備えればよい。 ・ 駐車場：80台程度の道の駅の事例あり。 ・ 地元企業も参画したPFI手法等による整備事例あり。

10 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

みず（加茂川）について

WGでの議論	
具体イメージ／ポイントに関する議論	- 特定の世代、特定の方々に限定するのではなく、老若男女、多くの市民が日常的に利用する空間を目指す。 季節感（春夏秋）を感じることができ、気軽に繰り返し訪れたいくなるリビングを目指す。 多様な利用ニーズを共存させるため、佇み・憩いなど静的な使い方をするゾーンと、動的な使い方（若者のスケボー等）をするゾーンに分けて、日常の滞在者を増やす。 - 滞在する上で、夏場の日よけ（日陰）、座るところは必須（構造物による日よけは無理であるが、移動可能なビーチパラソルをたくさん配置することは可能）。 - 長時間の滞在を可能とするために、広々とした自然の中で飲食を楽しめる場を提供する。 - やすらぎ堤や川床（小京都のイメージ）を設けることで、川辺の訪問目的や滞在時間を増やす。 オールシーズン型のインスタ映えスポットとなるような空間を目指す。 ▶「加茂川の鯉のぼり」だけでなく、加茂川を訪れる仕掛けをオールシーズンで実施し、「加茂川に行けば何かが流れている／見ることができる」ようにする。 ルールを守ることを前提に、花火や焚火（焼き芋）などを楽しめるようにする（できるゾーンを指定）。    ■川床イメージ 
シーン	- 河川敷が自分らしく過ごせる場所となっている。 - スケボーする若者、ゲートボールする高齢者が、河川空間利用を時間や曜日でシェアリングしている。 - 短時間でも長時間でも誰もが自分らしい過ごし方ができる。 - 子供たちが楽しく水遊び（川レジャー：水切り・水生昆虫探し等）をしている。
参考	- 加茂川周辺の滞在者は、50代が大半で、20代は僅か。 ⇒50代以上の利用を大切にしながら、まずは若い世代の滞在アップが重要。 - 出水期（6月10日～9月3日）のイベントは調整が必要。 - 夏祭りの時期や鯉のぼりの時期は1日に1,000人～5,000人の人が滞在するため、大人数が腰かけられる場所が必要。現在、加茂川では火気を使う制限はないが、問題が生じると禁止されてしまう可能性がある。このため、焚火等を認める場合は、適正利用を促す仕組みも必要となる。

10 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

みどり（加茂山）について

WGでの議論

具体イメージ／ポイントに関する議論

- 加茂山公園の特徴は、**まちなかにありながら自然の真っ只中**にいるような環境であり、**自然を前面に打ち出す**ことが有効である。子どもたちが遊びながら**自然を学ぶことができる**ようにしてはどうか（プレーパーク等）。
- 新潟市や三条市から家族連れが来ており、集客面ではポテンシャルが高い。
- 加茂山は身近な**里山的な存在**であり、まちなかにこのような「癒し」の**エリア**があるのは売りになる。
- 「癒し」の要素は、**神秘**、池の端、食である。「癒し」によって、訪問者の心と身体にリフレッシュやリラックスを提供できる。
- 加茂山公園は、大型ローラースライダーやリス園、民俗資料館、ハイキングコースなど多彩な魅力があり、**潤いを感じられる場所**である。
- 一方、初めて来た人にとって、どこにどう行ったらよいのかわかりにくく、案内等情報が不足している。各施設への**案内や誘導路を充実**するほか、**総合的にホスピタリティを高める**必要がある。
- 青海神社のポテンシャルは高いが、滞在機能が弱い**。今でも茶屋があるが、意欲のある民間事業者が更に参入できる仕組みがあるとよい。コーヒー、お茶、会話を楽しめる**静かな賑わい**が生まれるとよい。
- 商店街から鳥居に至る道路は、歩道に景観舗装や水路が整備され、**景観的に優れているので、もっと活かす**ことが重要である。



シーン

- 加茂山に来るたびに、心も身体も健康になれる。
- 季節や時間帯（昼夜）を問わず訪れる場所になっている。
- 距離や標高、移動しやすく、利用しやすい公園になっている。
- 雨対策や暑さ対策、園路灯が充実しており、雨天や夏場、夜でも訪れやすい場所になっている。
- 子どもたちがツリーハウス、手作り遊具、どろんこ遊び、落ち葉プール、虫取り、古道探検など自然をわくわくしながら、環境の素晴らしさを学んでいる。

参考

- 加茂山公園の入込客数はコロナ前は約30万人であったが、回復途上にある。
- 加茂山公園の訪問者は、市内より近隣市（新潟市）からの利用者が多い状況にあるため、市民の利用を促進する必要がある。
- 現状、加茂山公園は平日に比べ休日の利用が少ない状況にある。
- 平日は、高齢者（60代以上）が多く、休日は、30代が少ない傾向にある。

10 ゾーンごとのコンセプトに関するWGでの検討結果

つながりについて

WGでの議論

具体イメージ／ポイントに関する議論

- ・ **加茂山、商店街、加茂川がそれぞれに魅力を高めておくことが重要。**また、市民の間で、**商店街、加茂川、加茂山への愛着が芽生え、そこからおもてなしへつなげていくムーブメントをつくる**ことが重要。
- ・ 1日の中で、例えば加茂山で遊び、商店街で買い物・飲食をし、加茂川で憩うなど、**まち・みず・みどりが連携してストーリーを生み出す**ことを目指す。
- ・ 現状では商店街、加茂川、加茂山のイベントが別々に行われているが、**一体感を醸成するため、まちなかエリア全体をフィールドとした連携イベント**を行う。
- ・ 一部区間（加茂山⇄商店街⇄加茂川）をシーズン又は時間を決めて歩行者天国とするなど、**回遊を生み出す環境を整える**。
- ・ 商店街では、加茂山や加茂川のおすすめ滞在スポットを紹介するなど**回遊を促す情報発信**を行う。



- ・ 学生（加茂農林高校等）や高齢者が**活躍できる場・機会を用意**することで、地域の活力が増し地域内の愛着が芽生えとともに、外からも魅力あふれるまちと認識され、好循環を創り出していくことができる。
- ・ まちの美化清掃活動や花いっぱい運動など**おもてなしの空間づくり活動の場や機会を提供できる仕組み**をつくる。
- ・ 空き店舗をチャレンジショップとして活用することが考えられるが、所有者との調整など、簡単にできない場合もあるため、加茂川や加茂山を**チャレンジ空間として活用できる仕組み**をつくる。



シーン

- ・ 農林高校の生徒さんが、農産物の販売や花壇の維持管理などプレイヤーとして活動している。
- ・ 加茂山で遊んで、商店街でショッピングやランチ、店主との会話を楽しみ、加茂川でビール・ドリンクを片手にまったりする。
- ・ 小京都加茂ツアーとして、みどり（加茂山）⇄まち（商店街）⇄みず（加茂川）を巡るツアーを実施している。
- ・ 加茂川の河川敷に仮設のチャレンジショップを開設し、実績を積み重ねたあと、地元金融機関の支援ももらって商店街の空き店舗で本格開業できた。

参考

- ・ 葵橋～穀町・本町（宮大門交差点）～青海神社は、現状でも歩行者通行量が相対的に多い。